

# 専門医が診る

日本褥瘡学会

## 茂木定之 評議員



しげき・さたゆき 1956年津山市生まれ。80年広島大学医学部卒。JA広島総合病院形成外科主任部長を経て2013年4月から広島国際大総合リハビリテーション学部リハビリテーション支援学教授。日本在宅褥瘡創傷ケア推進協会理事、広島県創傷ケア研究会代表世話人。褥瘡に悩む家族らの相談に年100件以上応じている。

FILE21

圧迫された部位の血流が止まり、皮膚や筋肉が壊死する褥瘡(床擦れ)。寝たきりの人に多く、高齢者を介護する人にとってもやっかいな病気だ。形成外科医師で、日本褥瘡学会の茂木定之評議員(広島市佐伯区)に治療法や予防策を聞いた。

(赤村泰樹)

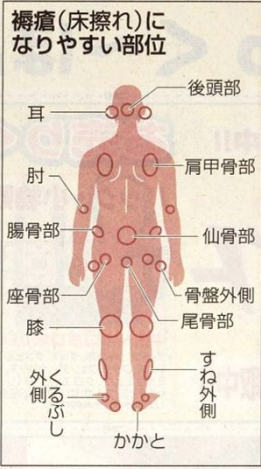
## 褥瘡(床擦れ)

褥瘡ができたなら、まずは患部をぬるま湯で洗い、黒や黄色になった壊死組織を取り除いてきれいにします。洗浄で壊死組織が取れることもあり、こびりついている場合ははきみやメスで除去します。タンパク質を分解する軟こうを塗ることもあります。

褥瘡ができたなら、まずは患部をぬるま湯で洗い、黒や黄色になった壊死組織を取り除いてきれいにします。洗浄で壊死組織が取れることもあり、こびりついている場合ははきみやメスで除去します。タンパク質を分解する軟こうを塗ることもあります。

褥瘡ができたなら、まずは患部をぬるま湯で洗い、黒や黄色になった壊死組織を取り除いてきれいにします。洗浄で壊死組織が取れることもあり、こびりついている場合ははきみやメスで除去します。タンパク質を分解する軟こうを塗ることもあります。

褥瘡ができたなら、まずは患部をぬるま湯で洗い、黒や黄色になった壊死組織を取り除いてきれいにします。洗浄で壊死組織が取れることもあり、こびりついている場合ははきみやメスで除去します。タンパク質を分解する軟こうを塗ることもあります。



# 性能向上 マットレス活用

### ここがポイント

原因を取り除かなければ再発します。塗り薬やドレッシング材を使った傷の治療とともに、体位変換やマットレス選びなどを適切に行い、特定の場所に圧がかからない工夫が必要です。

褥瘡は、体の重みで「圧迫」されたり、横方向に「ずれ」の力が加わったりして起こります。寝たきりの人の仙骨や、骨がこぼれ落ちる座骨など、骨が

傷が筋肉にまで及ぶと治療に数カ月という時間がかかり、細菌に感染して敗血症になり、最悪の場合、死に至ることもあるので油断は禁物です。

傷が筋肉にまで及ぶと治療に数カ月という時間がかかり、細菌に感染して敗血症になり、最悪の場合、死に至ることもあるので油断は禁物です。

て空気の出入りを調整し、圧を逃がす効果が高い。体が蒸れにくいものもあります。自力で動け、肉厚な人にはウレタンフォームのマットレスを使ったり、体の状態で使い分けます。

褥瘡(床擦れ)について茂木医師への質問や相談を募集します。〒730-8677 中国新聞社文化部「専門医が診る」係まで。ファクス 082(291)5828、メール kurashi@chugoku-np.co.jp でも受け付けられます。12日必着。掲載は匿名ですが住所、名前、性別、年齢、職業、ご連絡先を明記してください。

### 質問や相談募集

褥瘡(床擦れ)について茂木医師への質問や相談を募集します。〒730-8677 中国新聞社文化部「専門医が診る」係まで。ファクス 082(291)5828、メール kurashi@chugoku-np.co.jp でも受け付けられます。12日必着。掲載は匿名ですが住所、名前、性別、年齢、職業、ご連絡先を明記してください。

安心・安全